

踏まれ踏まれても生き返る

NO.33 2025.6.28

COM-MATCHAN

いたばし雑草通信

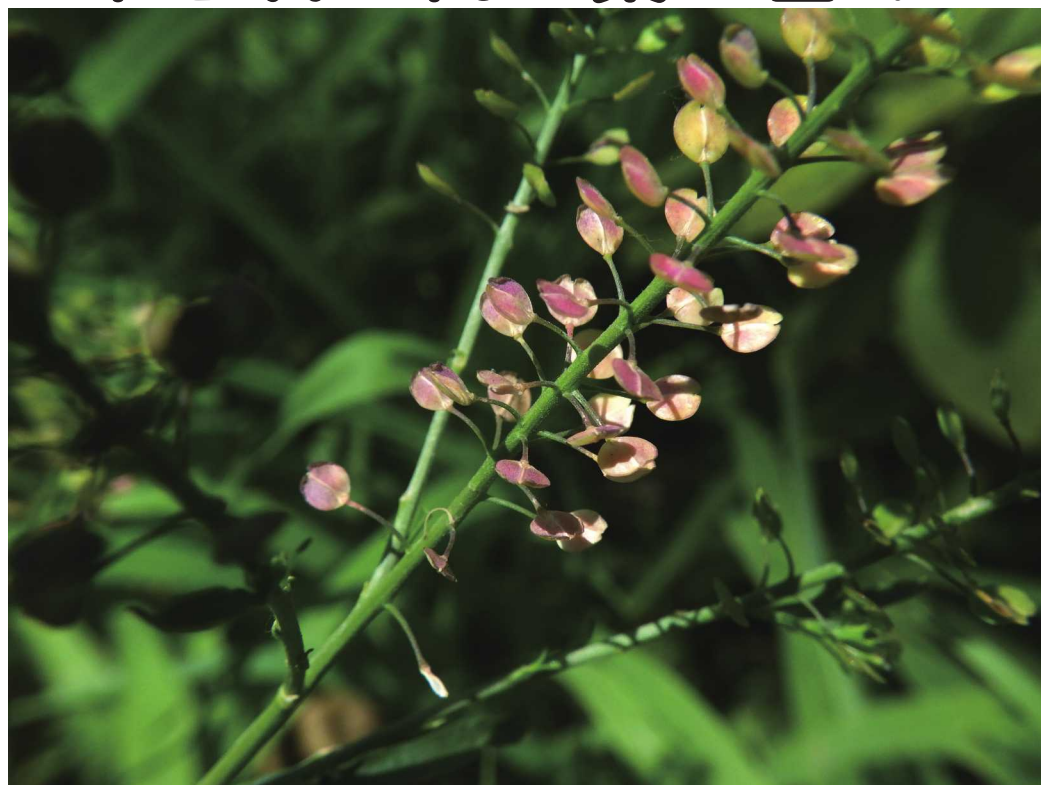
メール発信のみの情報紙です。ご希望の方はメールでお申込みください。無料です。

編集：発行 木村松夫
090-8646-9757

matsuokimura@gmail.com
com-matchan@hotmail.co.jp

板橋区立エコポリスセンター「かんきょう観察員」登録
地域自主活動グループのWEBページでも閲覧できます。ほかのグループのレポートも見てください

花が枯れて、果実になった！ 命を次世代に繋ぐ営みがここにある

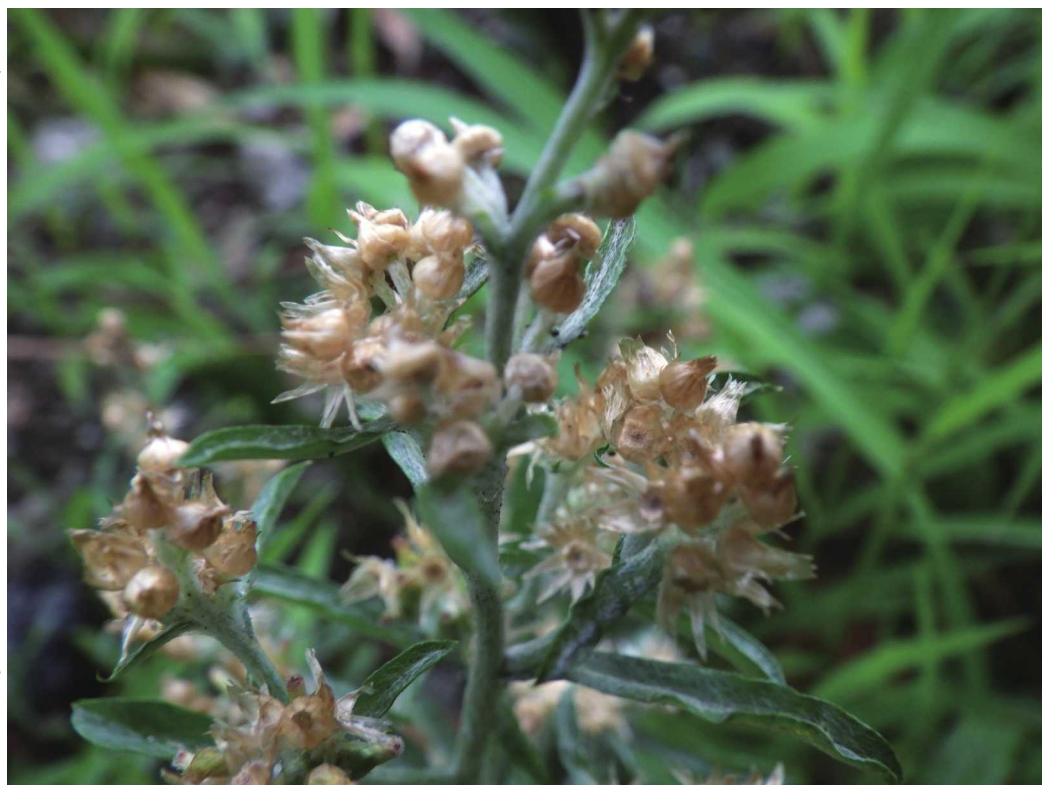


「果実(がじつ)」というと桃や林檎などの果物をイメージしがちですが、もともとは種子植物の花の雌蕊が雄蕊の花粉をくっつけて受精した結果、出来上がった子房です。大事なことはこの中に植物の子孫である種子が入っているということ。

ふつうは「種(たね)」とってしまうのですが、正式にはこの植物(種)の子孫なので「種子(しゆし)」と呼びます。これまでは「花が枯れちゃった」で見過ごししがちだったのですが、改めて眺めると、色の派手さがないだけで、とても微妙で美しい！

上＝**マメゲンバイナズナ**
6/3付のNo29では「春までナズナが大繁殖」と書きましたが果実の形からみてこの季節まで残っているのはマメゲンバイナズナだと分かりました。

右＝**ハハコグサ**
まちなかでふつうにみられるのはチチコグサモドキかうラジロチチコグサなのですが、今年はハハコグサもあちこちで観られました。写真の種は葉の形から判断しました。



さて、こういうことに
興味を持つということは
こちらもち枯れてきたということ

クキナシのドライフラワー 悪くはないが、これが自分のイメージとは



毎日夕方、アイキッズ（学童クラブ）に孫を迎えに行くと、「〇〇くんのおじいちゃんだ」と挨拶をしてくる子どもが増えてきます。中には、わたしの帽子をとっておでこをペタペタ。「なんで毛がないの？」なんて訊いてくる子がいて、「うるせえ、このガキ！ 歳とるとこうなるんだよ！」と怒鳴りたくなる子もいます。そこは抑えて、客観的にみて、わたしは他人からはこんな風にみえているんだろうな……。

初観察の植物、また出現



↑カモガヤ？ 小穂が長すぎるので異種かも



↑ホソムギ

我が家は板橋区のいちばん東端・北区との堺にあるので、散歩は区内石神井川近辺のほに、北区滝野川から上十条→西が丘→桐ヶ丘・赤羽台方面が多くなるのですが、同じ武蔵野台地の続きとはいえ、これまでの赤塚公園近辺とは様相がかなり違います。

左の２種は、北区内でも有数のみどり豊かな公園である北区中央公園で見つけたものです。戦前は陸軍被服廠があって、戦後は占領アメリカ軍の中樞があったところ。いまでも一角に自衛隊や学校、福祉施設があり、あまり商業化が進んでいないのが良いのでしょう。

在来種・希少種はないものの、「アレッ、なんだこりゃ」の野草があったりして、結構楽しめます。